

「島田市版ネウボラで取り組んだ 担当保健師による継続支援

～チームで対応する仕組みと育成～」

静岡県 島田市 健康づくり課



島田市の概要



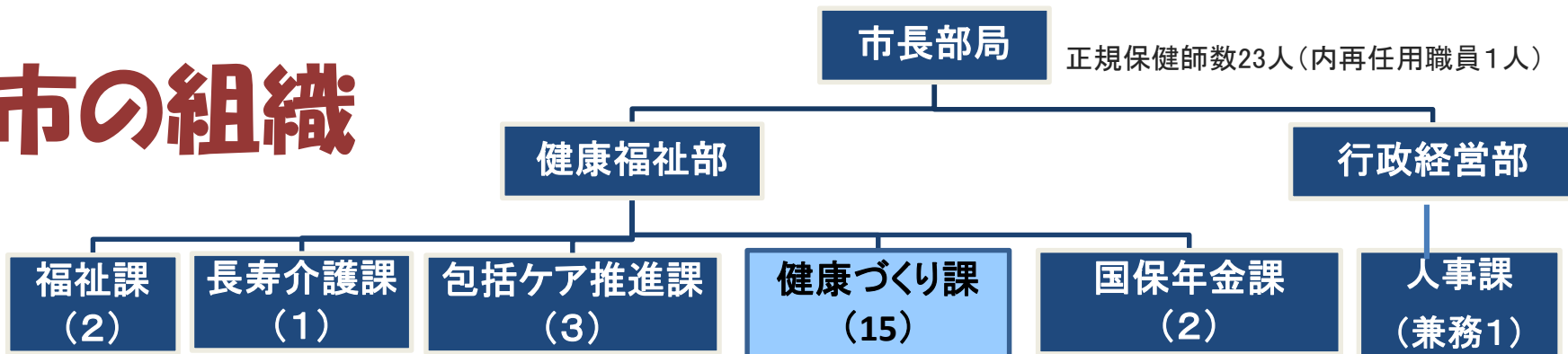
- 人口 96,769人(令和4年3月31日現在)
- 年間出生数 628人(令和3年)
- 合計特殊出生率 1.39(令和元年)
- 出産場所

市内には産科医院が1箇所

6割は市外の医療機関等でお産している



市の組織



正規保健師数23人(内再任用職員1人)

健康づくり課保健師の業務

体制	内容
地区担当制 業務分担制 担当保健師制	健康づくり課保健師の業務内容 ・健康づくり事業(保健委員活動など) ・成人保健事業(健康増進法に基づく生活習慣病予防、重症化予防、禁煙対策など) ・感染症予防事業(予防接種・新型コロナウイルス感染予防) ・自殺対策事業 ・歯科保健事業 ・母子保健事業 等

医療総務係

健康支援係

(13)

子育て世代包括支援センター「てくてく」

訪問看護ステーション係(1)

島田市版ネウボラ導入までの経緯

<背景>

- 減らない虐待件数
- 予期せぬ妊娠、飛び込み出産など緊急対応ケースの増加
- 家族が抱える問題の複雑化や専門的な支援が求められるケースの増加
- 保健師の訪問拒否、電話拒否、関係機関の支援会議はどのように会うかという作戦会議
- 保健師が来ると何か問題がある家庭とわかってしまう・・・という保護者の思い。
- リスク要因が少ない、表面化していないケースには目が行き届かない
- ライフステージが変わると、関係部署へのつながりが弱く、継続的な支援が困難。

しかし・・・

妊娠期から関わりが多いケースは家族との信頼関係も構築され、家庭状況もわかるため支援が深まる

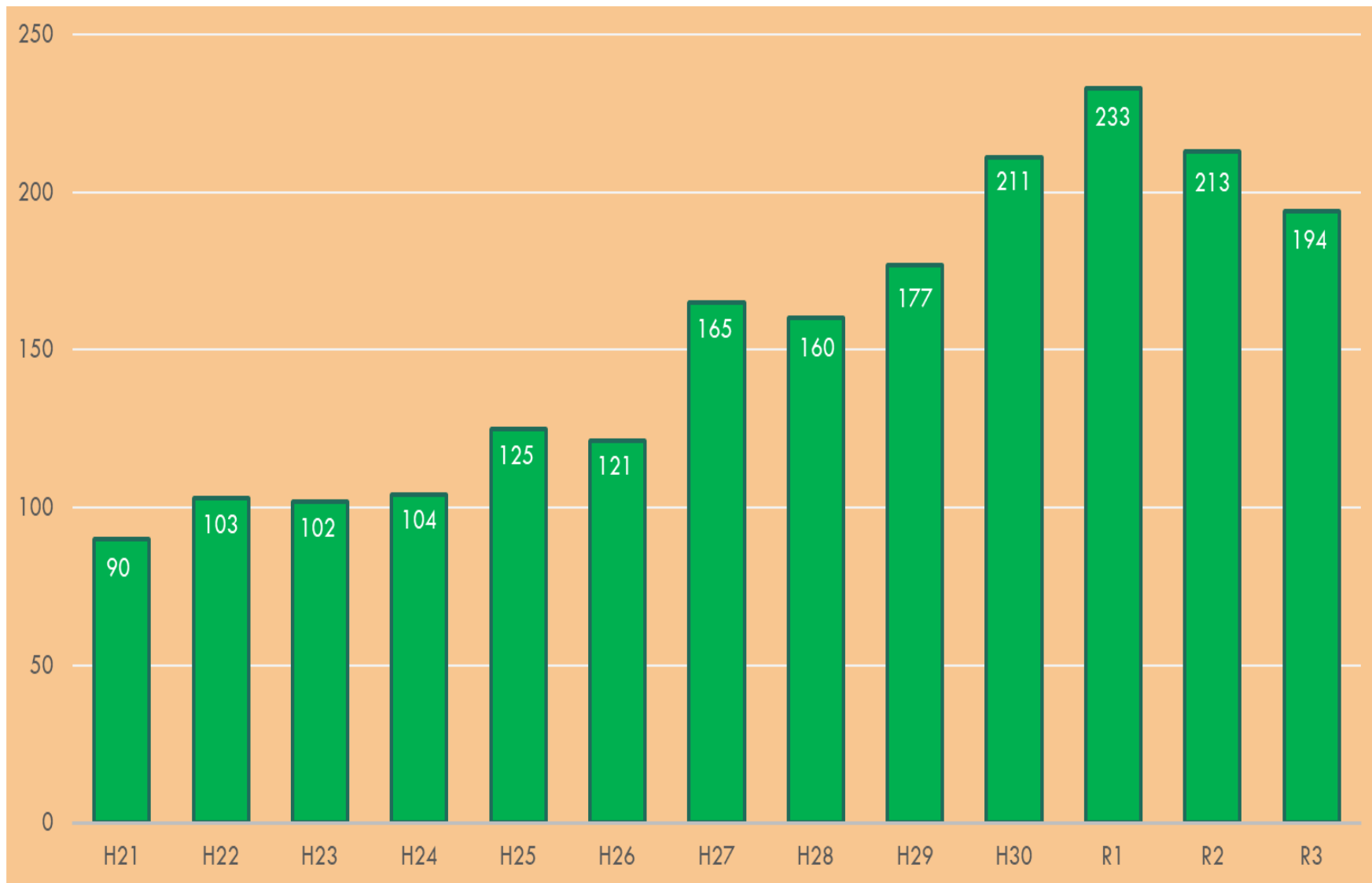


すべての子育て
世帯が情報と支援
を必要としている。

- 妊娠期から同じ保健師が継続して関わる
仕組みづくり
- 世帯ごとの管理ができるカルテ

島田市児童虐待相談件数の年次推移

(単位:件)



資料:子育て応援課

島田市版ネウボラの立ち上げまで

子育て世代包括支援センター 「てくてく」保健師の想い・・・

妊娠期から同じ保健師が継続して関わると、支援につなげやすい。

保護者との信頼関係って大事！

ハイリスク家庭だけでなく、すべての子育て世帯に担当保健師が必要。

H30.10

大阪市立大学大学院 横山美江教授の講演会でフィンランドのネウボラを知る。

H30.12

課内で検討会開始。保健師の合意を得る。

H31.2

大阪市立大学大学院 横山美江教授との面談が叶い、アドバイザーを依頼する。

市長をはじめ幹部職への説明

令和元年度の市政方針として掲げられる。

H31.3

市内小児科医から「島田市版ネウボラ」立ち上げに協力の意向をいただく。

H31.4

フィンランドのエッセンスを取り入れた島田市版ネウボラを開始

R1.8

庁内関係課に理解を得るため「課題分析会議」を開催する。

島田市版ネウボラ導入前後の比較と期待する効果

顔の見えない
保健センターへの相談



顔のわかる
担当保健師への相談

従来の母子保健	島田市が目指す親子保健	期待する効果
【医療モデル】 スクリーニングから必要な支援につなげる	【子育て支援】 誰もが支援を受ける	<ul style="list-style-type: none"> ・問題の早期発見、予防、介入につなぐことができる。 ・担当保健師が妊娠期から個別に相談に応じることで、お互いに信頼関係を構築しやすくなる。 ・顔の見える関係を構築することで相談しやすい環境が整備できる。 ・関係機関が直接担当保健師に連絡ができる。
【ハイリスク】 緊急対応の増加、対応に時間を要する	【ポピュレーション】 地区担当保健師がすべての子育て世帯を受け持つ	
母子中心の支援	家族(父も含めた家族)を支援	
集団での支援	個と個の支援	
同じ保健師ではない 場面場面で対応する保健師が違う	同じ保健師である 子育て世帯ごとに担当保健師を配置	
虐待相談は増加	虐待相談は横ばい、減少	
母子保健、子育て支援に関わる課が複数あり、相談先がわかりにくい	まずは担当保健師に相談	

島田市版ネウボラを推進するための課題

① 担当保健師が担当家族と会えるしくみづくり

- ・母子健康手帳交付時の顔合わせ
- ・集団による乳児相談・幼児健診の時間指定制の導入
- ・はじめのいっぽ講座の開催 など

② 保健師が担当家族に関われる時間の確保

- ・てくてくコールセンターの設置
- ・乳児相談・幼児健診を生年月日からブロック別に変更
- ・事業の効率化(モバイルパソコンの活用等)

③ 関係課、関係機関との連携

④ 保健師の資質の向上

- ・保健師の経験年数に左右されない
- ・市内小児科医など有識者を講師にした勉強会の開催

① 担当保健師が担当家族と会えるしくみづくり

H31.4月から母子健康手帳の交付時に担当保健師を紹介


連絡先MEMO

担当 保健師	名称: 島田市健康づくり課	TEL: 0547-34-3285
	担当: 島田花子(1.10~)	副: 金谷夢奈 (1.10~)
	担当: (. ~) 副: (. ~)	
	担当: (. ~) 副: (. ~)	


QRコードで担当保健師の
連絡先を登録！

(表面)

あなたのご家族の
担当保健師
はまだ はなこ
島田花子です。



★ 連絡先 ★
電話: **0547-34-3285**
島田市保健福祉センター内
健康づくり課
島田市中河町283番地の1



(裏面)

誰かに話をしたくなった時、
困った時、
私を思い出して下さい。
いっしょに喜び、
いっしょに悩み、
いっしょに考え、サポートします!!

複数行にして、担当保健師が変更しても次の担当を記入できる

母子健康
手帳

最終ページ

① 担当保健師が担当家族と会えるしくみづくり

島田市のH30年度までの母子保健事業

※各母子保健事業で母子が顔を合わせる保健師は、毎回知らない保健師

導入前



ハイリスクケース
は担当保健師が
継続して支援

嘱託保健師
助産師



母子健康手帳交付

パパママ教室
フレッシュ

妊婦健診
(医療機関委託)

産婦健診
(医療機関委託)

赤ちゃん訪問

4か月児健診
(医療機関委託)

7か月児相談

10か月児健診
(医療機関委託)

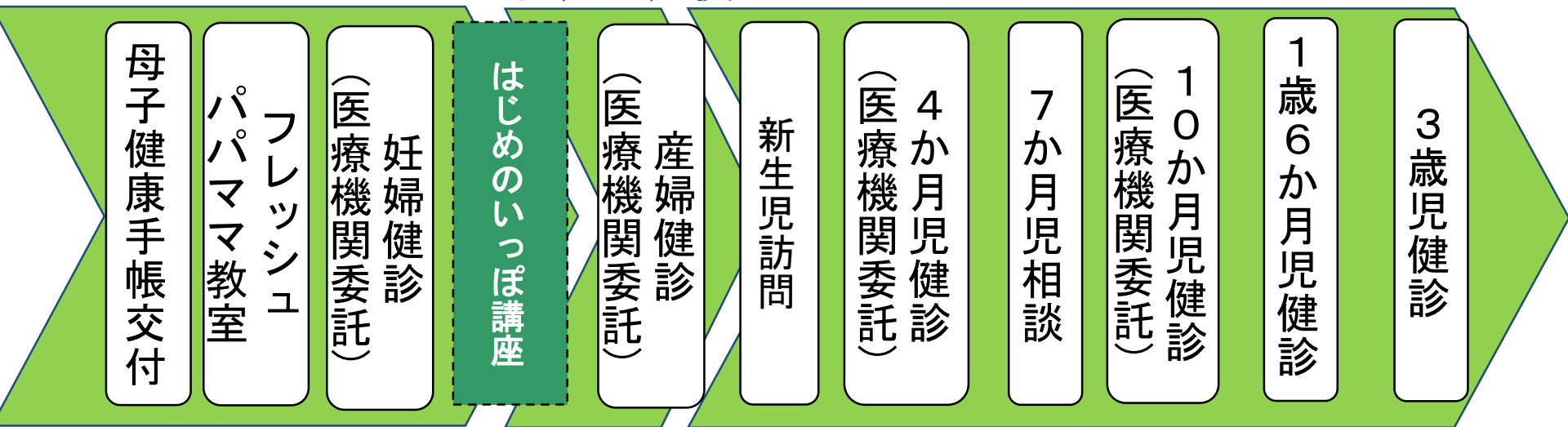
1歳6か月児健診

3歳児健診

妊娠

出産・産後

① 担当保健師が担当家族と会えるしくみづくり

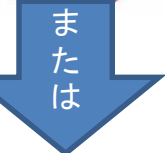


現在



【顔合わせ】
私が担当です。
パパも含めた御
家族の相談を受
けます。

乳幼児相談・健診の時間指定制の導入

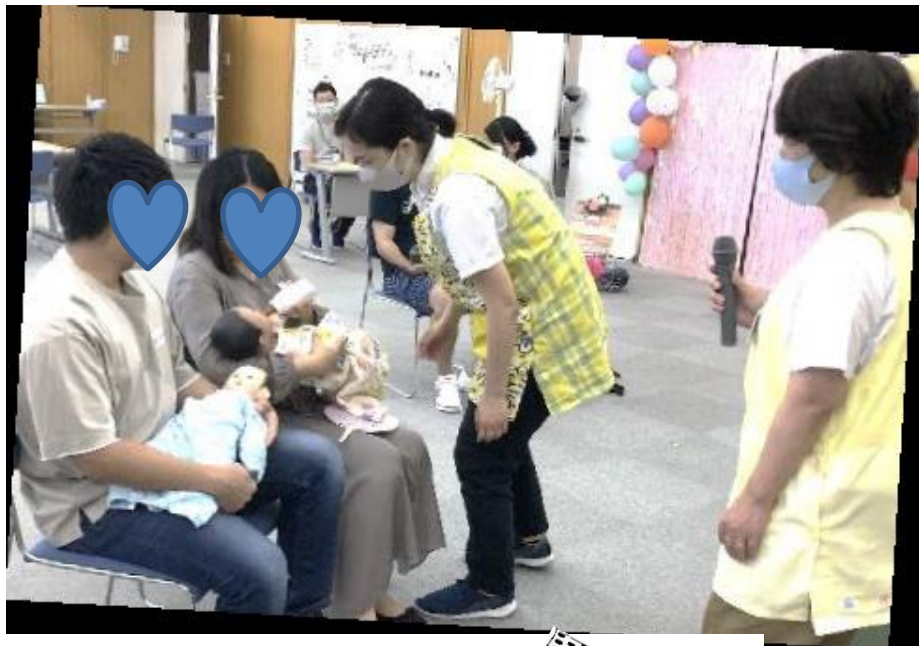


発展(将来)



はじめのいっぽ講座

① 担当保健師が担当家族と会えるしくみづくり



保健師との面談

★パパ・ママから

- ・担当保健師の顔が見れて良かった。
- ・いろいろな人のサポートがあることがわかった。
- ・話を聞いてもらえて良かった。



② 保健師が担当家族に関われる時間の確保

てくてく コールセンター

お子さんのこと、ご家族の健康のことなど
お困りのことがありましたら、お電話ください

はじめます!!

**保健師が
対応します**

*状況により他の職種が
対応する場合があります



34-3285

てくてくコールセンターでは
こんなことに対応します

- ・担当保健師への相談や連絡
 - ・お子さんやご家族の健康相談
 - ・母子健康手帳の交付について
 - ・赤ちゃん訪問のこと
 - ・予防接種のこと
 - ・こどもの健診のこと・・・
- 4ヶ月児・10ヶ月児健診 7ヶ月児相談 1.6ヶ月児健診
3歳児健診
- ・各予約受付・・・予約制乳幼児相談 離乳食講習会の託児 食生活相談
 - ・各講座受付・・・フレッシュパパママ教室

月曜日～金曜日 8:30～17:15

(ただし、祝日・年末年始は除く)

② 保健師が担当家族に関われる時間の確保

モバイルパソコンの導入



- モバイルパソコン活用チーム
- アプリ検討チーム
- 健康かるて(健康管理システム)検討チーム

健康かるてチーム

② 保健師が担当家族に関われる時間の確保

今までは・・・

赤ちゃん訪問や乳幼児健診・相談の結果を
紙の個票に手書き



健康管理システムに入力



R2. 9月～

訪問時にモバイルパソコンを活用し、直接システムに入力

R3. 1月～



入力した結果を出力し、家族カルテに添付

H30年度⇒

1. 5日/月 空き時間の確保

モバイルパソコン活用チーム

★あそびの教室



★育児サポーター



★ベビープログラム



★子育てコンシェルジュ



見える化で、保護者の安心につなげる

アプリ検討チーム DX推進課との協働

③ 関係課、関係機関との連携

子育て支援プラットフォーム

『しまいく+』の構築

デジタル技術（スマートフォンなど）を活用することで、特定の市民と行政の双方向のやりとりを、いつでも、どこでも行うことができる。暮らしを支える新しいデジタル生活基盤であるプラットフォーム及びプラットフォームの機能を用いたサービスの構築

担当保健師制の導入

- 母子健康手帳交付時に顔合わせをすることで、赤ちゃん訪問や7か月児相談は「顔見知りの保健師」に相談できる安心感がある
- 保健師のモチベーションがあがる
- 担当家族に対する責任感が増す
- 災害時にも効果がある
- 要保護児童対策地域協議会の特定妊婦の減少

担当の家族から

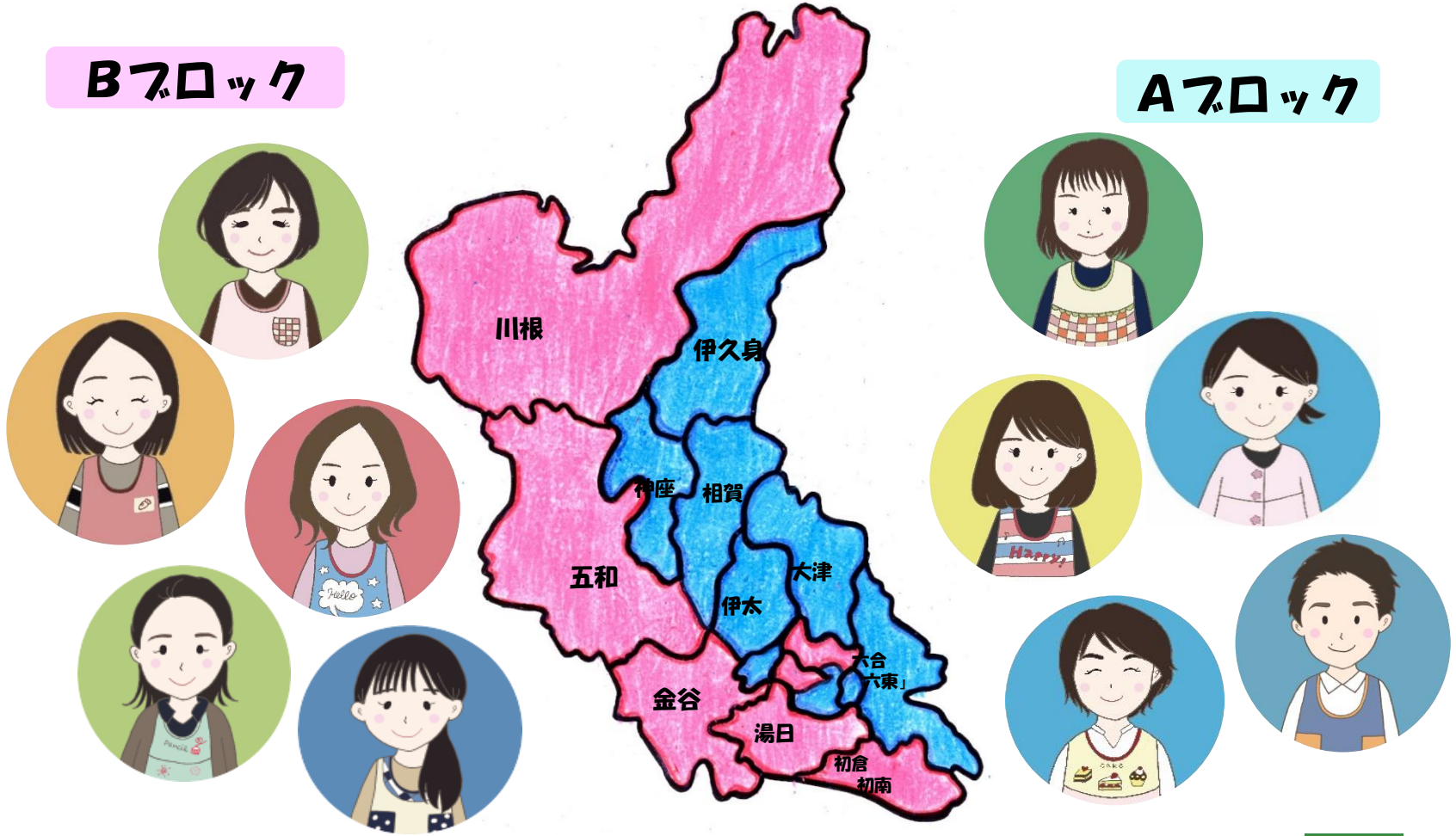
- ・訪問時に「お久しぶりです！」と迎え入れてくれる。
- ・「産まれました！」や「上の子が今日3歳になったんですよ。」と担当保健師に連絡が入る。
- ・「小学校のお兄ちゃんが学校で困っているんです。」と、家族の相談が入る。
- ・パパからも相談や家族の報告が入る。

④ 保健師の資質の向上

担当保健師は、2つのブロック制です。

Bブロック

Aブロック



チームによるケース支援について(全体)

- 島田市版ネウボラについて共通理解を持つ
- 経験差で支援が変わらないような対策が必要



- 事業の進捗管理を行うため「課題分析会議」の開催(庁内関係課の理解にもつながる)
- 保健指導マニュアルの作成(一部改訂)と活用
- 有識者を講師に迎えての学習会

チームによるケース支援について(チーム)

- ブロック毎の、定例ケース会議(月1回)
 - ケースの状況確認>アセスメント>課題抽出>支援の方向性を決定
 - 支援プランの作成>関係機関との連携と役割分担(⇒ケース会議の開催)
 - 支援の進捗確認(評価)>再プランの作成
- 随時のケース会議 リーダー保健師を中心に
- 支援ケースの共有(毎朝)⇒支援の方向の確認

持続可能な保健活動を考える

- Never Change
- Must Change



ご清聴ありがとうございました

島田市
緑茶
計画